

インターバンクの声（2015年6月5日）

昨晚、家路についた多くの東京勢が気にしていたのが、欧州債とりわけ独10年債利回りがどこまで上昇するのかや、東京の夕方に流れた原田日銀審議委員の「過去の異常な円高はほとんど修正された」などと発言したインタビュー報道が時間差を置いた海外で蒸し返されることがあるのかなどだった。独10年債利回りについては1%を超えて1.20%あたりまで一気に上昇するだろうとの無責任な見通しも飛び交っていたが、結果的には1%すら超えず、利回り上昇に連動したユーロ高も欧州時間の序盤に限られてしまった。原田発言の時間差を置いての影響も全くと言って良いほどなかったようで、海外勢が発言内容を総合的に判断してのことだったのか、或いは、一番最近になって任命された原田委員の知名度の低さによるものであったかも知れない。結局、米雇用統計の発表を翌日に控えた昨夜の海外市場は、序盤はいつも通りに米新規失業保険申請件数、IMF報告やギリシャ問題のヘッドラインへの反応が中心となり、後半は雇用統計を控えて調整モードに入る展開だった。やはり相場が大きく動くきっかけとなる材料は、今晚の米雇用統計が主役となりそうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。